

東京2020

オリンピック・パラリンピック競技大会

ホストタウン交流計画による

パラオ共和国研修生

研修実績報告書

【2019-2020】



常陸大宮市紹介



パラオに向けた動画配信



PR活動



日本語教室



ガーボン パラオ ガーボン
Kabong Palau Kabong



クッキングプロジェクト



地元高校生
との交流



学校訪問交流



文化体験（陶芸）

2020年 8月

茨城県 常陸大宮市

目 次

1. パラオ共和国研修生 研修活動概要	P 1
2. 研修内容	
(1) 日本語の習得や日本についての基礎知識等の理解	P 2 ～
(2) 日本の歴史・文化等の理解	P 5 ～
(3) 東京オリンピック・パラリンピックに向けた ホストタウン交流事業に係る活動	P 8 ～
(4) 国際交流の促進に向けた活動	P 13 ～
(5) 日本における行政運営の理解	P 17 ～
3. 研修を終えての感想	P 21 ～
4. 研修活動の成果と今後の交流に向けて	P 22 ～
参考資料（新聞・テレビ等広報関連）	
(1) 新聞【抜粋】	参考P 1 ～
(2) テレビ【抜粋】	参考P 5 ～
(3) 市広報	参考P 9 ～
(4) 関連団体機関紙	参考P 17 ～

パラオ共和国研修生 研修活動 概要

1. 研修期間

2019年9月17日（火）から2020年7月14日（火）まで（計：302日間）

2. 研修生 2名



ケネリー レケメル



シェナ セゲバオ

3. 研修目的

ホストタウン交流計画の一環として、2017年度に続き2回目となる研修生を受入れ、日本文化等の理解及び日本語の習得のほか様々な体験や交流を通して、市民等との交流を深め、また、東京2020大会に向けたパラオ共和国選手団事前キャンプや大会本番におけるサポートをはじめ、大会終了後の交流事業の企画立案などを行うことで、本市とパラオとのさらなる友好交流を促進するとともに、当該友好交流の懸け橋となる人材を育成するために下記研修を実施する。

※新型コロナウイルスの影響

本年7月に開催される予定であった東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、史上初の1年延期となる（2020年3月24日 国際オリンピック委員会（IOC）及び東京2020組織委員会発表）。これにより、パラオ共和国選手団事前キャンプや交流事業等が当面の間、延期または中止となり、その後の研修内容についても研修生ができることを模索しながらの対応となる。その後、更にコロナの影響が悪化したため、研修期間を2ヶ月残し7月14日に急遽日本を出国した。

4. 研修内容

- (1) 日本語の習得や日本についての基礎知識等の理解
 - ①コミュニケーション能力の向上
 - ②日本での生活における基礎知識等の理解及び研修生の心構え
- (2) 日本の歴史・文化等の理解
 - ①日本の歴史の理解
 - ②日本の伝統文化体験
- (3) 東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン交流事業に係る活動
 - ①常陸大宮市・パラオ共和国のPR活動
 - ②ホストタウン交流事業のサポート
- (4) 国際交流の促進に向けた活動
 - ①交流事業等を通じた児童、生徒等との交流
 - ②地域イベント等を通じた市民等との交流
- (5) 日本における行政運営の理解
 - ①市の各種行政施策の基礎知識の習得
 - ②スポーツイベントに係る運営補助

※活動回数については、個別計画書内回数欄に記載。

5. 研修計画の作成等についての留意点

外国人研修事業に関する協定書第3条第1項の規定により作成するものとする。また、研修の実施にあたっては、当該研修ごとに個別計画を作成し、研修の意義、目的等について研修生の理解を図るとともに、当該研修の記録を整理するものとする。

研修内容【（１）日本語の習得や日本についての基礎知識等の理解 個別計画書】

研修名	日本語の習得や日本についての基礎知識等の理解							
意義及び目的	パラオ共和国と本市との橋渡し役となるため、日本語を習得することにより、コミュニケーション能力向上と本市のホストタウンの取組についての理解を深める。また、日本での生活における基礎知識等を理解し生活環境に慣れることで、更なる研修の充実を図る。							
具体的な内容	①コミュニケーション能力の向上 a.定期的な日本語講座への参加 日 時：毎週月曜 18時30分から20時00分まで 場 所：おおみやコミュニティセンター 協力団体：国際交流ボランティアばらの会 b.個別講師による日本語教室集中トレーニングの実施 日 時：週1日 1回あたり2時間 場 所：市役所内 協力団体：市国際交流協会 ②日本での生活における基礎知識等の理解及び研修生の心構え ・研修目的、手当 ・生活の心構え、生活の仕方（ごみ、スーパー、コンビニ、駅など）							
活動数等	① a.日本語講座…2019年9月から2020年7月まで b.日本語教室…2019年9月から2020年7月まで ②基礎知識等 2019年9月から2020年7月まで	<table><tr><td>17</td><td>回</td></tr><tr><td>50</td><td>回</td></tr><tr><td>2</td><td>回</td></tr></table>	17	回	50	回	2	回
17	回							
50	回							
2	回							
成果等	「市国際交流協会」や「国際交流ボランティアばらの会」の協力で計67回に及ぶ日本語授業を受講し、J.TEST実用日本語検定（主催：日本語検定協会）の結果から2人とも基礎的な日本語能力を身に付けることができた。							
特記事項	・ J.TEST実用日本語検定（結果） ケネリー・レケメル 369/700（N4 相当） シェナ・セゲバオ 349/700（N5 相当）							

研修実績【(1) 日本語の習得や日本についての基礎知識等の理解 具体的な内容】

①コミュニケーション能力の向上

a. 日本語講座

期間：2019年9月30日（月）から2020年7月6日（月）まで

2019年度（9月～3月）：14回，2020年度（4月～7月）：3回 計17回

場所：おおみやコミュニティセンター

講師：国際交流ボランティアばらの会

会長 石澤 令子氏 ほか会員の皆さん



b. 日本語教室集中トレーニング

期間：2019年9月25日（水）から2020年7月10日（金）まで

2019年度 9月：1回，10月：5回，11月：4回，12月：4回，1月：4回，2月：3回，3月：5回 計26回

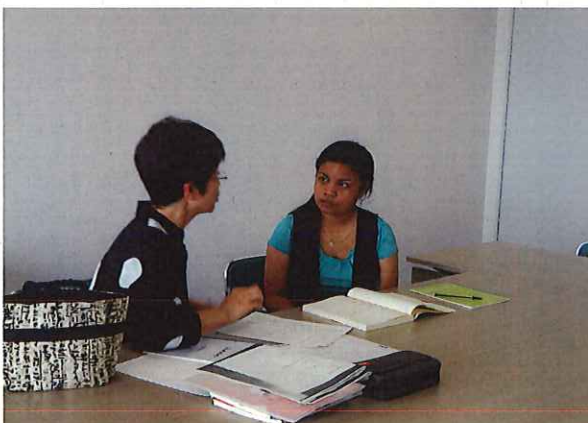
2020年度 4月：5回，5月：7回，6月：7回，7月：5回 計24回

場所：常陸大宮市役所

講師：常陸大宮市国際交流協会

二瓶 廣美 氏

廣木 なほ子 氏



※特記事項に係る内容

期日	曜日	内容
7月12日	(日)	J.TEST実用日本語検定

②日本での生活における基礎知識等の理解及び研修生の心構え

期日	曜日	内容
9月18日	(水)	研修目的, 手当
9月19日	(木)	生活の心構え,生活の仕方(ごみ, スーパー, コンビニ, 駅)

研修内容【（２）日本の歴史・文化等の理解 個別計画書】

研修名	日本の歴史・文化等の理解				
意義及び目的	本市（国・県含む）の様々な文化体験を通じて、両国の違いを認識し見聞を広げるとともに、両国の関係性やつながり等を理解する。				
具体的な内容	①日本の歴史の理解 ・水戸二連隊ペリリュー島慰霊会事務局長へインタビュー ②日本の伝統文化体験 ・干し芋作り，西の内紙体験，陶芸体験				
活動数等	<table border="1"> <tr> <td>①日本の歴史の理解</td><td>1 回</td></tr> <tr> <td>②日本の伝統文化体験</td><td>12 回</td></tr> </table>	①日本の歴史の理解	1 回	②日本の伝統文化体験	12 回
①日本の歴史の理解	1 回				
②日本の伝統文化体験	12 回				
成果等	本市がパラオのホストタウンとなったきっかけである歴史について，水戸二連隊ペリリュー島慰霊会事務局長に対し，日本語にてインタビューを行い，平和を願うだけでなく「平和をつくることの大切さ」について学んだ。また，伝統文化体験として本市の伝統的和紙「西の内紙」の体験では，和紙の原料である楮を刈り取り，蒸して皮を剥ぎ取り乾燥するなど和紙ができるまでを学習したほか，「陶芸」や「干し芋」づくり等複数回にわたる継続的な体験を通して，日本の伝統文化を深くまで学ぶことができた。				
特記事項					

研修実績【(2) 日本の歴史・文化等の理解 具体的な内容】

①日本の歴史の理解

期日	曜日	内容
6月22日	(月)	水戸二連隊ペリリュー島慰霊会事務局長 影山幸雄氏にインタビュー



影山氏インタビュー

②日本の伝統文化体験

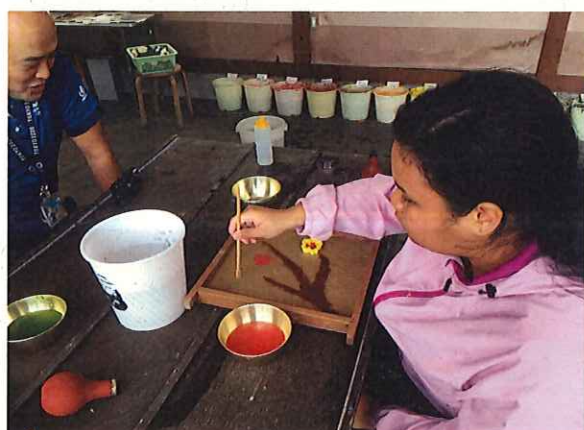
期日	曜日	内容	協力団体等
11月6日	(水)	干し芋作り①	間瀬 邦生 氏
11月7日	(木)	干し芋作り②	間瀬 邦生 氏
11月25日	(月)	西の内紙絵付け体験	紙のさと 菊池 大輔 氏
1月22日	(水)	陶芸体験① 陶芸の基礎や歴史等	山王窯 菊池 弘 氏
1月28日	(火)	陶芸体験②手びねり技法	山王窯 菊池 弘 氏
1月30日	(木)	陶芸体験③てびねり・ろくろ回し技法	山王窯 菊池 弘 氏
2月2日	(日)	和紙①原料となる楮の切り出し等	紙のさと 菊池 大輔 氏
2月3日	(月)	干し芋作り③	間瀬 邦生 氏
2月9日	(日)	和紙②原料となる楮の皮剥ぎ・乾燥等	紙のさと 菊池 大輔 氏
2月10日	(月)	陶芸体験④てびねり・ろくろ回し技法	山王窯 菊池 弘 氏
2月16日	(日)	陶芸体験⑤乾燥後の成型等	山王窯 菊池 弘 氏
6月25日	(木)	陶芸体験⑥乾燥・素焼き指導	山王窯 菊池 弘 氏



干し芋作り (芋掘り)



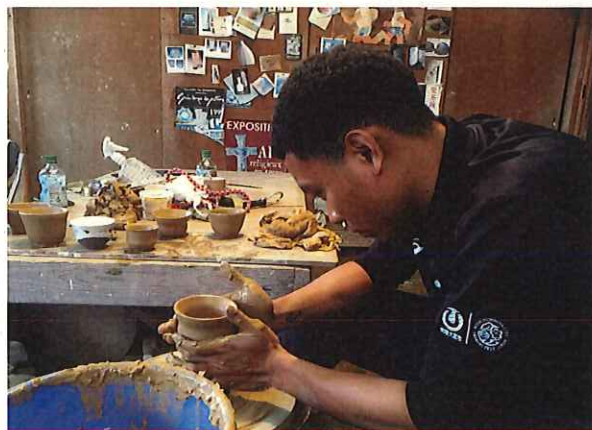
干し芋作り (芋の皮むき)



西の内紙絵付け体験



西の内紙体験



陶芸体験

研修内容【(3) 東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン交流事業に係る活動 個別計画書】

研修名	東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン交流事業に係る活動	
意義及び目的	東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、イベント等でパラオ共和国の紹介や、本市のホストタウン事業のPR活動を行い、本市の取組を広く周知するとともに、市全体の機運醸成を図る。また、研修生がホストタウン交流事業のサポートをすることで、本市の取組を理解すると共に、今後も続く交流事業の企画立案につなげる。	
具体的な内容	①常陸大宮市・パラオ共和国のPR活動 a.PRブースの運営…いきいき茨城ゆめ国体、常陸大宮クロスカントリー等 b.その他…NHK応援ムービーへの出演、本市紹介動画の配信等 ②ホストタウン交流事業のサポート a.市事業運営支援 b.他機関との共催事業運営支援	
活動数等	①常陸大宮市・パラオ共和国のPR活動	11 回
	②ホストタウン交流事業の運営支援	7 回
成果等	本市で企画したホストタウン交流事業への参画として、計画段階から携わり多くの事業サポートに貢献した。クッキングプロジェクト in Hitachiomiyaやパラオセミナー、テレビ電話を活用した小学校間交流の運営サポート等をする とともに、パラオの魅力を参加者に紹介した。また、対日理解促進プログラムJENESYS2019 招へい事業では、パラオを含む大洋州6ヶ国の学生に対し、本市の魅力、取組を広くアピールした。またイベントでは、本市ホストタウン事業についてPRしたほか、来場者の方々にパラオオリジナルグッズなどを配布しながら、本市やパラオについて広く周知を行った。その他、NHK動画「世界を応援しよう!」では、駐日パラオ共和国からの推薦によりパラオ代表として出演した他、2020年3月からは、コロナ渦において、自分たちができないことはないかと考え、ホストタウンである本市の紹介として、観光名所、食べ物、歴史などをパラオの人たちへ伝えようと、内容検討からナレーションまで制作を担当し、動画を発信したことで、パラオ国内での本市の認知度を高めるなどの効果があった。	
特記事項		

研修実績【(3) 東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン交流事業に係る活動 具体的な内容】

①常陸大宮市・パラオ共和国のPR活動

a. PRブースの運営

期日	曜日	内容	場所
9月30日	(月)	いきいき茨城ゆめ国体 なぎなた競技会 PRブース	西部総合公園
10月1日	(火)	いきいき茨城ゆめ国体 なぎなた競技会 PRブース	西部総合公園
11月12日	(火)	パラオ共和国独立及び日本との外交関係樹立25周年記念祝賀会	パレスホテル東京
12月15日	(日)	市国際交流協会フェスティバル	緒川総合センター
1月9日	(木)	新年賀詞交歓会	西部総合公園
1月13日	(月)	常陸大宮クロスカントリー大会	水戸グリーンカントリークラブ 山方コース
3月20日	(金)	パラオ紹介展示PR ～29日(日)	道の駅常陸大宮 ～かわプラザ～
7月5日	(日)	七夕フェス	道の駅常陸大宮 ～かわプラザ～



いきいき茨城ゆめ国体 PRブース



パラオ共和国独立・日本との外交関係樹立25周年記念祝賀会



市国際交流フェスティバル
-P9-



新年賀詞交歓会



常陸大宮クロスカントリー大会



七夕フェス

b. その他

期日	曜日	内容
10月30日	(水)	東京2020大会に向けた各国の応援を紹介する「NHK 世界を応援しよう！」の撮影 本市紹介動画の配信 (全5話)
3月～6月		Vol.0 イン트로ダクション Vol.1 常陸大宮市とパラオ共和国の歴史 Vol.2 常陸大宮市の基礎データ Vol.3 Road to 2020 (研修生の活動) Vol.4 事前キャンプ2018, 2019
7月		常陸大宮市×パラオ共和国 ホストタウンバッジ デザイン作成



NHK 世界を応援しよう



本市紹介動画の作成の様子



Vol.0 イン트로ダクション



Vol.1 常陸大宮市とパラオ共和国の歴史



Vol.2 常陸大宮市の基礎データ



Vol.3 Road to 2020 (研修生の活動)



Vol.4 事前キャンプ2018, 2019



常陸大宮市×パラオ共和国 ホストタウンバッジ -P11-

②ホストタウン交流事業のサポート

a. 市事業運営支援

期日	曜日	内容
1月26日	(日)	パラオセミナー in Hitachiomiya (講師：藤稿 亜矢子 氏, テーマ：観光・伝統文化) 環境活動に関するインタビュー, グループワーク
2月1日	(土)	パラオセミナー in Hitachiomiya (講師：芝村 剛 氏, テーマ：観光) パラオの観光地の紹介
2月8日	(土)	パラオセミナー in Hitachiomiya (講師：松岡 洋司 氏, テーマ：国際交流) 将来についての意見の発表
2月13日	(木)	テレビ電話を活用した小学校間交流 (大宮西小学校とペリリュウ小学校) カメラワークなど進行補助



パラオセミナー



テレビ電話を使った小学校間交流

b. 他機関との共催事業運営支援

期日	曜日	内容
12月7日	(土)	パラオ共和国独立25周年及び日本・パラオ外交関係樹立25周年記念企画『クッキングプロジェクト in Hitachiomiya』(主催：駐日パラオ共和国大使館) パラオ料理の紹介, 調理中の高校生の補助
12月13日	(金)	対日理解促進プログラムJENESYS2019招へい事業 (主催：外務省, 公益社団法人青年海外協力協会) 本市紹介プレゼンテーション
12月14日	(土)	対日理解促進プログラムJENESYS2019招へい事業 (主催：外務省, 公益社団法人青年海外協力協会) 西の内紙絵付け体験等の補助



クッキングプロジェクト



対日理解促進プログラムJENESYS2019 招へい事業

研修内容【（４）国際交流の促進に向けた活動 個別計画書】

研修名	国際交流の促進に向けた活動	
意義及び目的	将来を担う子供たちとの交流により、互いの文化や生活を理解・尊重し合いながら、多文化共生や国際的な視点を持つ国際感覚あふれる相互の人材育成を図り、交流により培ったレガシー（遺産）を子供たちが継承する。また、本市や地域団体等で開催されるイベントなどに積極的に参加し市民等と交流することで、相互の国際感覚向上と国際交流促進を図る。	
具体的な内容	①交流事業等を通じた児童、生徒等との交流 ・水戸啓明高校での学校訪問、研修生交流プロジェクト ②地域イベント等を通じた市民等との交流 ・西塩子の回り舞台、餅つき体験、花壇作り	
活動数等	①交流事業等を通して児童、生徒等との交流	6回
	②地域イベント等を通して市民との交流	8回
成果等	イベント等に参加し交流することで、研修生と市民等が両国の文化などを理解・尊重し合いながら多文化共生や広い視野を持つ国際感覚あふれる人材育成の一助となった。パラオ柔道チームが練習を行った水戸啓明高校では、「書道」「美術」「給食」など授業を体験し、「研修生交流プロジェクト」では、市内の観光地である道の駅や温泉施設などを、市内高校生5名と共に巡り、将来を担う高校生の国際感覚を養い、国際理解を図る交流事業に寄与した。その他、3年に一度実施される「西塩子の回り舞台」の準備に携わり、当日舞台に立ったほか、茨城県花いっぱい運動の一環として、御前山地域中居・秋田地区の自主計画した「パラオ応援花壇づくり」に参加し、花の植栽や応援看板設置等を手伝い共に作りあげることを通して、市民との交流を深めた。	
特記事項		

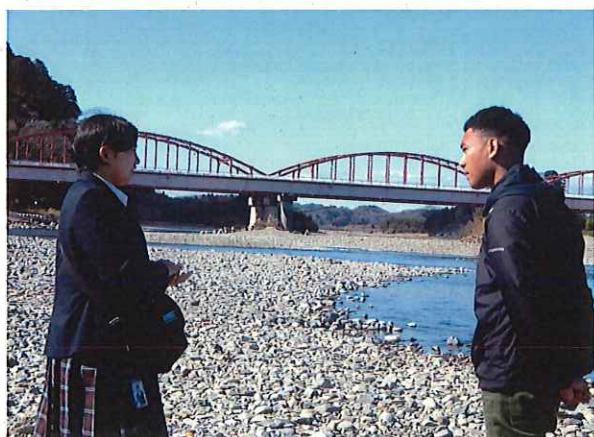
研修実績【（４）国際交流の促進に向けた活動 具体的な内容】

①交流事業等を通じた児童，生徒等との交流

期日	曜日	内容	協力団体等
12月17日	(火)	学校訪問及び授業体験，プレゼンテーション等を通じた交流	水戸啓明高等学校
2月18日	(火)	研修生交流プロジェクト	常陸大宮高等学校,小瀬高等学校
2月19日	(水)	①常陸大宮市の魅力発信	
2月20日	(木)	②パラオ共和国の魅力発信と友好交流の促進	
2月21日	(金)		
7月9日	(木)	学校訪問及び高校生よりプレゼンテーション	小瀬高等学校



水戸啓明高校 学校交流



研修生交流プロジェクト



小瀬高校 学校交流

②地域イベント等を通じた市民等との交流

期日	曜日	内容	協力団体等
9月20日	(金)	稲刈り (小貫)	小貫地区
9月26日	(木)	竹あかりドーム作り	道の駅常陸大宮～かわプラザ～
10月5日	(土)	西塩子の回り舞台 組立手伝い	西塩子の回り舞台保存会
10月20日	(日)	西塩子の回り舞台 本番	西塩子の回り舞台保存会
12月30日	(月)	餅つき体験	岩崎地内
1月1日	(水)	日本のお正月体験	山方地内
5月31日	(日)	中居・秋田地区花壇づくり①	中居・秋田地区
6月28日	(日)	中居・秋田地区花壇づくり②	中居・秋田地区



稲刈り体験



西塩子の回り舞台 準備



西塩子の回り舞台



中居・秋田地区花壇づくり



餅つき体験

研修内容【（５）日本における行政運営 個別計画書】

研修名	（５）日本における行政運営の理解	
意義及び目的	ペリリュー州職員として本市において研修をしている２人が、東京2020大会に向けたパラオ共和国選手団のサポートやパラオでの本市の認知度向上を図るため、本市の各種行政施策の基礎知識や行政運営手法、さらに市の魅力を深く知ること、交流事業等の企画立案に寄与する。また、研修終了後には、習得した知識や経験等を活かし、パラオと本市の更なる友好の懸け橋としての役割が期待される。	
具体的な内容	①市の各種行政施策の基礎知識の習得 a. 市内視察 b. 外国人向け施策 c. 奉仕活動 ②スポーツ事業に係る運営補助 ・ドリームベースボールの準備 ・常陸大宮クロスカントリー大会の準備	
活動数等	①市の各種行政施策の基礎知識の習得	16 回
	②スポーツ事業に係る運営補助	7 回
成果等	基礎知識の習得として、本市の観光地や特産品等を理解するため鷺子山上神社や辰口親水公園などの視察のほか、県生涯学習センター主催の意見交換会では、外国人視点での日本の生活における課題について意見を述べた。また、JICA筑波を訪問し、農業に特化した施設見学や日本の政府開発援助（ODA）がパラオのインフラ整備などに貢献されていることを学んだ。市体育協会主催のクロスカントリー大会においては、大会運営の準備を手伝い、事業の組み立て方などを知る良い機会となった。	
特記事項		

研修実績【(5) 日本における行政運営 具体的な内容】

①市の各種行政施策の基礎知識の習得

a.市内視察

期日	曜日	内容
11月26日	(火)	観光地 那珂川大橋
		観光地 御前山ダム
		特産品 御前山ラーメン @ラーメンショップ
		観光地 三王山自然公園
		観光地 百観音
		特産品 ふるさわ(生クリーム大福,クリームクロワッサン)
11月29日	(金)	観光地 鷺子山上神社
12月5日	(木)	観光地 歴史民俗資料館
		観光地 辰ノ口親水公園
12月10日	(火)	観光地 清流公園
		観光地 淡水魚館



那珂川大橋



三王山自然公園



鷺子山上神社



辰ノ口親水公園



清流公園



淡水魚館

b.外国人向け

期日	曜日	内容
11月15日	(金)	県域生涯学習連絡会議
6月19日	(金)	JICA筑波 施設訪問



JICA 筑波 施設訪問

c.奉仕活動

期日	曜日	内容
9月21日	(土)	茨城国体に向けた環境美化への取組
9月27日	(金)	水戸北部工業団地市道除草ボランティア
11月17日	(日)	令和元年東日本台風ボランティア 災害ごみの分別



令和元年東日本台風ボランティア

②スポーツイベントに係る運営補助

期日	曜日	内容
10月10日	(木)	市制施行15周年記念事業 ドリームベースボール準備 (バックスクリーン用ネームプレート清掃)
10月11日	(金)	市制施行15周年記念事業 ドリームベースボール準備 (バックスクリーン用ネームプレート清掃)
10月27日	(日)	市制施行15周年記念事業ドリームベースボール本番 ※台風19号により中止
1月6日	(月)	常陸大宮クロスカントリー大会準備 (のぼり旗作成)
1月7日	(火)	常陸大宮クロスカントリー大会準備 (のぼり旗作成)
1月10日	(金)	常陸大宮クロスカントリー大会準備 (のぼり旗作成及び参加賞袋詰め)
1月12日	(日)	常陸大宮クロスカントリー大会準備 (参加賞袋詰め,体育協会職員と共に前日会場下見)



常陸大宮クロスカントリー大会 準備

3. 研修を終えての感想



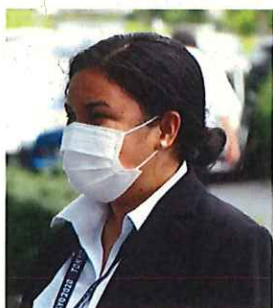
(左から ケネリー レケメル、シェナ セゲバオ)

・ケネリー レケメル



今回は、私にとって2回目の常陸大宮市での研修となりました。2年前と同じ山方地域に居住し、皆さんと再会できたことがとても幸せで懐かしく感じました。私は、すでに様々な経験をし、知っていることや日本語が分かるようになっていたことから、前回に比べてとても研修しやすい環境でした。ただ、コロナウイルスの影響で、学校訪問やイベントなどができなかったことが数多くあり残念でした。しかし、私はたくさんの新しいことをこの研修で学びました。それは、陶芸体験や西の内紙体験などです。また、更に日本語を勉強したので、日本語能力が向上したと思います。あっという間の10ヶ月でしたが、常陸大宮市での日々を楽しみ、多くの皆さんと交流できました。本当に、ありがとうございました。来年の東京オリンピックでは、もう一度、第二の故郷である常陸大宮市に帰ってきたいと思います。今、私は、常陸大宮市の人々ととても強い繋がりを感じています。そして、もし常陸大宮市の人々がパラオに来る機会があれば、パラオを案内したいと思います。

・シェナ セゲバオ



常陸大宮市では、今まで経験したことのないことをたくさん経験しました。パラオ国外での長期滞在や1人暮らしをすることは、人生で初めての経験でした。私は日本や常陸大宮市の食べ物が大好きです。お気に入りには、「アユの塩焼き」や「生クリーム大福」、「とんかつ」、「さつまいも」などです。その中でも、「さつまいも」味の食べ物はどれもおいしいものばかりでした。もう一つ常陸大宮市で印象深いことは、自然が豊かな場所であることです。私は、四季を経験することができました。まず、来日して初めに経験したのは、秋です。葉の色が緑色から赤や黄色、オレンジに変わりました。それは見事で、あまりの美しさに、私はどこへ行っても写真を撮り続けました。そして、冬が来ました。日本人は、例年に比べると今年は寒くないと言っていました。しかし、私にとっては寒かったです。山方の休場展望台で雪を見ることができました。それは、冷たくて、柔らかくて、氷のように固いところもありました。私はとても幸せでした。私たちは、小さい雪だるまを作りました。冬が終わり、桜が咲きました。とても美しかったです。桜を見るという夢を叶えることができました。これからも自分ができる方法で、この経験をパラオの人に伝えたいと思います。

4. 研修活動の成果と今後の交流に向けて

本市は、東京2020大会におけるパラオ選手団の事前キャンプの受入をはじめ様々なホストタウン交流を通して、市民の国際感覚の向上を図りながら国際交流を促進し、また、オリンピック・パラリンピアンとの交流を通して、スポーツの振興や健康づくりの推進に努めてきた。さらに、ホストタウンの取組を広く国内外にアピールすることで、本市の知名度向上や魅力発信に向けたシティプロモーションを展開し、こうした取組を総合的に推進することで、オリンピックレガシーを創出し、地域の活性化や地域創生につなげていくことを目指して取り組んできた。

しかしながら、本年7月に東京2020大会を迎えようとした最中、新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により大会が1年延期となり、当初計画していたホストタウン交流事業の中止やパラオ共和国選手団の事前・直前キャンプが延期となるなど、ホストタウン関連事業の遂行に支障をきたす厳しい状況となってしまった。

こうした状況下において、2回目となるパラオ共和国からの研修生受入事業についても、その影響を大きく受け、計画どおりの研修を実施することが困難となった。この研修の最大の目的は、東京2020大会に向けたパラオ共和国選手団の事前キャンプや本番直前のキャンプが円滑に行われるよう、研修生が同国選手団と本市の調整役を担うほか、大会期間中のパブリックビューイングや競技会場での応援、サポート等に携わることであった。しかし、大会が延期となり、研修生は本来の研修目的を達成できないという不安や失望を感じたが、自分自身がやるべきことは何か、今できることは何かと自ら考え、新しい視点での交流を見出した。研修生独自の柔軟な発想や器用さを活かした取組（SNSの活用など）である。ホストタウン交流を推進するにあたり、その方法や手法を多面的・多角的に捉えていくことの重要性や必要性を改めて感じたところである。

レケメル氏については、2回目の研修であり、日本の歴史や文化、行政運営の理解、国際交流の促進に向けた活動など、前回研修よりもさらに深く知見を広げることが研修課題とした。基礎的な日本語が理解できることから、より深く市民の方々と交流することができたものとする。また、セゲバオ氏については、初めての研修であり、基礎的な日本語の習得や歴史、文化等の理解、パラオと本市との関係を理解することで、イベントや市民との積極的な交流を通して、友好交流の担い手となることを目指しての研修となった。真剣に、そして意欲的に取り組んだことで、概ね目的が達成できたとする。

研修生の活動は、多くのメディア（テレビ・新聞等）に取り上げられ、「パラオのホストタウン常陸大宮」を国内外へ広くアピールするシティプロモーションについては、大きな効果があったものと思われる。

2人の研修生には、本市での経験を活かし、帰国後においても、「常陸大宮国際交流大使」として、本市の魅力を継続的にパラオの方々へ伝えながら、また、パラオ共和国選手団の事前キャンプの受入をはじめ交流事業の連絡調整やサポート役を担い、本市とパラオとの友好の懸け橋となる人材として活躍することを期待したい。

東京2020大会が1年延期となったことについては、ホストタウン交流事業をさらに充実させることができる機会や期間であると前向きに捉え、一歩ずつ着実にホストタウン交流を進めていく。さらに、パラオブルーサポーターをはじめ多くの市民の方々の交流への参画を促進し、4人の「常陸大宮国際交流大使」の協力のもと、パラオ共和国との継続的かつ発展的な友好交流を進めることで、多くのレガシーを創り出し、「活力と誇りあふれるまち」づくりにつなげていきたい。

最後に、東京2020大会が、世界が一丸となって新型コロナウイルスに打ち勝った証として、パラオ共和国をはじめ世界中の国や地域の選手や人々が日本に集結し、来年開催されることを願うばかりである。

※研修生は、2020年7月14日に出国後、経由地のグアムでは政府指定ホテルに隔離。PCR検査結果では陰性となるも他のパラオ人に陽性反応があり、感染経路確認のためグアムで30日まで足止め。再度のPCR検査陰性を経て、31日にパラオ入国。その後も政府指定ホテルで隔離されたが、2度のPCR検査陰性となり、出国から約1ヶ月後の8月14日に帰宅。

参考資料

(新聞・テレビ等広報関連)

新聞 2019年度【抜粋】

No. 1	茨城新聞	2019年 9月28日	きれいな会場にしよう 研修生も協力
No. 2	産経新聞	12月10日	パラオと常陸大宮 強い絆 先の大戦から来年の五輪へ
No. 3	産経新聞	12月30日	パラオの研修生ら高校生と交流
No. 4	産経新聞	2020年 1月26日	国際交流, 早くも熱気
No. 5	読売新聞	1月30日	カウントダウン 176日
No. 6	読売新聞	1月31日	開幕 待ちきれない
No. 7	茨城新聞	3月18日	東京五輪サッカー茨城開催 127日
No. 8	産経新聞	3月26日	五輪延期 首長・関係者ら落胆
No. 9	毎日新聞	3月26日	五輪延期に戸惑い 自治体職員対応に頭抱え
No. 10	読売新聞	3月26日	1年後へ準備継続 ホストタウンが取材内容を変更
No. 11	産経新聞	4月4日	パラオと常陸大宮の切手 ホストタウンを記念

No.3 2019.12.30 掲載 産経新聞ホームページ

パラオの研修生ら高校生と交流 ペリリュー島と茨城の深いつながり

2019.12.30 14:00 | プレミアム



生徒の前でパラオを紹介するシェナ・セゲバオさん（左）とケネリー・レケメルさん＝水戸市の水戸啓明高

日本から南に3000キロ以上も離れた太平洋ミクロネシア地域のパラオ共和国から、茨城県常陸大宮市に研修生として来日中の2人が、県内の高校生らと交流を深めている。常陸大宮市は東京五輪でパラオのホストタウンとなっており、交流は今後もますます進むとみられる。

高校生と交流したのは、ケネリー・レケメルさん（22）とシェナ・セゲバオさん（23）。2人は水戸市の水戸啓明高（田中睦啓校長）を訪問し、美術や書道の授業を体験した。

2人は第二次世界大戦の激戦地として知られるパラオのペリリュー島出身。昭和19年、島に上陸してきた米軍と交戦した水戸歩兵第二連隊を中心とする日本の守備隊は1万人以上が戦死し、その中には常陸大宮市の出身者75人も含まれていた。

戦後、遺族の慰霊訪問をきっかけに常陸大宮市とパラオの交流が生まれ、来年の東京五輪で常陸大宮市はパラオのホストタウンとなり、選手が五輪に出場した場合の事前キャンプ地にも決まっている。2人は選手団のサポートのほか、市民との交流など両国のかけはしとしての役割も務める。

水戸啓明高でのふれあいは、グローバル・フロンティアコース1年の生徒たちが今年、地域の国際交流をテーマとしたグループ研究で常陸大宮市を訪れたのがきっかけとなり実現した。

体験授業の後は、2人が生徒たちの前でパラオを紹介するスピーチを行った。「アリー（パラオ語のこんにちは）」と笑顔を見せたセゲバオさんは、パラオのスポーツの応援の仕方を『ガーボン（がんばれ）、パラオ、ガーボン！』と身ぶり手ぶりで紹介。「日本の応援の仕方ば？」と質問し、生徒らに教わった「ニッポン、チャチャチャ」を早速実演してみせた。

レケメルさんは総面積488キロメートル、人口約2万人といったパラオの基礎知識を紹介。「（年間の）平均気温は28度。すごく暑いところですよ」と流暢（りゅうちょう）な日本語で説明。さらに、「一番人気のあるスポーツはヤキウ。お好み焼きに似た食べ物にコロツケといいます」と、第一次世界大戦後、日本の統治下にあったパラオでは定着している日本語が少なくないことを紹介した。

また、青年海外協力隊員として今年7月まで2年間、パラオで陸上競技の指導に当たり、現在は常陸大宮市の東京オリパラ推進室で司国との交流事業を手がける本多美月さん（26）も登場。

大学まで棒高跳び選手だった本多さんは、現地の竹を使って教え子に競技を経験させた思い出などを披露したほか、「ホームステイ先のホストファミリーが本当の娘のように私へ接してくれたのが一番の思い出」と現地の人々の温かさに感謝した。

No.5 2020.1.30 掲載 読売新聞



No.7 2020.3.18 掲載 茨城新聞



No.4 2020.1.26 掲載 茨城新聞

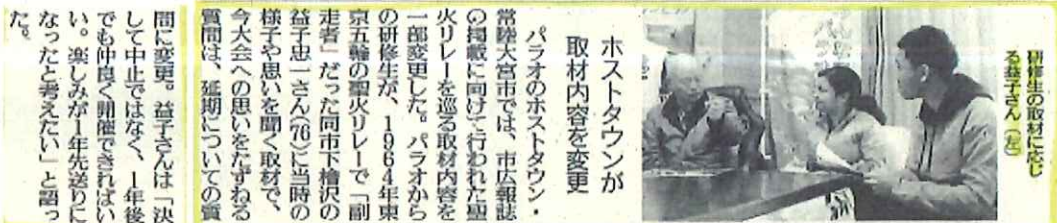


常陸大宮市で開かれたタロスカントリー大会で、家族連れにパラオ文化を紹介するシェナ・セゲバオさん（左）とケネリー・レケメルさんは13日前、同市羽田、高田祥宏撮影

国際交流、早くも熱気

東京五輪・パラリンピックが、市立友成中で開かれ、国際交流の熱気が出ている。7月5日、6日には本県を代表する選手たちが、パラオ共和国の選手たちと、パラオの文化や生活について交流する機会がある。パラオ共和国は、ミクロネシア連邦の南東部に位置する島国で、人口は約15万人。パラオ語は、ミクロネシア連邦の4つの言語の一つで、パラオ共和国の公用語となっている。パラオ共和国の国旗は、青い空と白い雲、そして赤い太陽が描かれている。パラオ共和国の文化は、伝統的な踊りや音楽、そして手工芸品などがある。パラオ共和国の生活は、自然と調和した生活で、家族やコミュニティが大切視されている。パラオ共和国の観光資源は、美しいビーチや珊瑚礁、そして伝統的な文化などがある。パラオ共和国の観光客は、自然と文化を楽しむことができる。パラオ共和国の観光客は、自然と文化を楽しむことができる。パラオ共和国の観光客は、自然と文化を楽しむことができる。

No.10 2020.3.26 掲載 読売新聞



閉校生の取材に応じるシェナさん（左）

パラオのホストタウン・常陸大宮市では、市広報紙の掲載に向けて行われた壁火リレーを巡る取材内容を一部変更した。パラオからの研修生が、1984年東京五輪の壁火リレーで「副走者」だった同市下楢沢の益子忠一さん（70）当時の様子や思いを聞く取材で、今大会への思いをたずねる質問は、延期についての質問に変更。益子さんは「決して中止ではなく、1年後でも仲良く開催できればいい。楽しみが1年先送りになったと考えたい」と語った。

No.11 2020.4.4 掲載 産経新聞

常陸大宮市が東京五輪でパラオ共和国のホストタウンを務めるのを記念した「ホストタウンフレーム切手」（税込み1735円）が、同市内13の郵便局などで販売されている。同市とパラオの美しい風景や名所などを紹介する切手10枚をそろえた両地域の友好の証しともなる。新型コロナウイルスの

常磐路ノート

感染拡大で五輪が1年延期された中、「久しぶりの明るい話題です」と市の会派徹也・東京オリパラ推進室長（47）は表情を和ませる。市は3月20日から29日までを「パラオフェア」と銘打ち、元五輪選手らによるトークショーや、パラオを紹介する数々のイベントを予定していたがウィ

パラオと常陸大宮の切手 ホストタウンを記念



オリジナルフレーム切手「常陸大宮市×パラオ共和国ホストタウンフレーム切手」！
左2人目から研修生のシェナ・セゲバオさん、ケネリー・レケメルさん、三次真一郎・常陸大宮市長（同市提供）

コロナ禍はね返す強い絆

リスの感染拡大でほとんどが中止に追い込まれた。また大会の延期で、交流事業を担当するパラオのベリリユー州から来日した男女研修生、ケネリー・レケメルさん（22）、シェナ・セゲバオさん（23）は8月に研修ビザの期限が切れると帰国しなければならぬ。2人は、パラオ選手の出陣直前合宿もサポートするはずだった。それでもレケメルさんは「もっと日本語を磨き、母国との交流に役立ちたい」、セゲバオさんも「ビデオなどで日本の魅力をパラオへ発信したい」と前向きな意欲を失っていない。2人が生まれたベリリユー州は先の大戦の激戦地で、常陸大宮市出身の16人が戦死した。現地への遺族の慰霊訪問が縁で生まれた強い絆はコロナウイルスもはね返す力があると信じている。（三浦馨）

新聞 2020年度【抜粋】

No.1	読売新聞	2020年 6月7日	パラオ料理に挑戦を
No.2	産経新聞	6月23日	パラオ研修生 戦争を聞く
No.3	茨城新聞	6月23日	母国の激戦、心に刻む
No.4	読売新聞	6月28日	パラオ人 祖国激戦語り継ぐ
No.5	茨城新聞	7月1日	花壇作りパラオ応援
No.6	産経新聞	7月11日	パラオの研修生帰国へ
No.7	毎日新聞	7月12日	「五輪で選手支える」
No.8	茨城新聞	7月14日	交流の懸け橋に
No.9	東京新聞	7月14日	パラオとの友好 さらに強く
No.10	読売新聞	7月16日	五輪交流研修生パラオへ帰国

No.3 2020.6.23掲載 茨城新聞

母国の激戦、心に刻む

ペリリュー島慰霊会・影山さんと面会

常陸大宮市に滞在するパラオ研修生は、母国の激戦を語り継ぐ。ペリリュー島の慰霊会・影山さんと面会し、戦いの歴史を学ぶ。

常陸大宮市に滞在するパラオ研修生は、母国の激戦を語り継ぐ。ペリリュー島の慰霊会・影山さんと面会し、戦いの歴史を学ぶ。

常陸大宮市に滞在するパラオ研修生は、母国の激戦を語り継ぐ。ペリリュー島の慰霊会・影山さんと面会し、戦いの歴史を学ぶ。

No.5 2020.7.1掲載 茨城新聞

花壇作りパラオ応援

常陸大宮 五輪活躍と友好願う

東京五輪・パラリンピックの住民が花壇作りを行った。常陸大宮市で、パラオ研修生と地元住民が協力して花壇を作った。

東京五輪・パラリンピックの住民が花壇作りを行った。常陸大宮市で、パラオ研修生と地元住民が協力して花壇を作った。

No.6 2020.7.11掲載 産経新聞

パラオの研修生帰国へ

常陸大宮市役所で送別会

東京五輪で常陸大宮市がホストタウンとなっているパラオ共和国から同市に派遣された男女の研修生、ケネリー・セゲバオさん（23）とシエナ・セゲバオさん（23）の帰国が決定。送別会が開かれた。

東京五輪で常陸大宮市がホストタウンとなっているパラオ共和国から同市に派遣された男女の研修生、ケネリー・セゲバオさん（23）とシエナ・セゲバオさん（23）の帰国が決定。送別会が開かれた。

パラオ料理に挑戦を

東京五輪・パリンピックで、太平洋の島々からなるパラオ共和国のホストタウンとなっている薩摩大宮市が、現地の食文化に自宅で見学してもらった企画を始めた。市報5月号では魚料理「ベルダック」のレシピを紹介。家庭で再現したベルダックや、そのアレンジ料理の写真を6月30日まで募集している。

ペラオクルは、バオオ語でス
パを意味する。魚だをたて、柑
橘類の葉を飾り、味つたてし、現地の
家庭で親しまれている料理だ。
受け入れた情報は、市が前年上
で食文化の周回・ペリニョ州職
員シエナ・セバオオス23、ケネ
リ・レケルオス23と市内の高
校生が昨年1月、在日バオオ大使
と市の共催イベントでバオオ料理
を弁当店にレシピをもとに考
かけ、考案したレシピをもとに、今
年3月の交際イベントで調理を提
示する予定だ。だが、新型コロナウイルス
に感染拡大の影響で中止になっ
た。

そこで市の担当者が考案したのが、

市報にレシピ、写真を募集

五輪ホストタウン
・常陸大宮市



パラオの家庭料理「ベルダックル」をPRするシェナさん（右）とケネリーさん（常陸大宮市で）

家庭で楽しんでるものだった。市販のホームビデオでは市販の映画も、研修生がパソコンで紹介する動画も見るのが好き、今後お祭んなら食文化を撮りたい。

家庭で紹介した料理の写真は、市東京オリパ推進室に郵送やメールで送ると全国記念品が動かし、優秀のアレシ料理にはイチオシ賞が贈呈される。シェナさんは「家族と一緒にのんびりおやつを食べて、休日に好みの歌を作って」と呼ばれていた。

応募方法とは同推進室（029-5211111）へ。

応募方法などは同推進室（029・52・1111）へ。

No.8 2020.7.1 掲載・茨城新聞

交流の懸け橋に

東京五輪・パラリンピックでパラオ共和国のホストタウンとなっている常陸大宮市で、交流研修生として活動してきた同国の2人が14日に帰国することになり、10日夕、同市役所で送別セレモニーが開かれた。

パラオ研修生が帰国

宮大常

ケネリ・「ケルズ」
 (2)とシナ・「エパル」
 余(公)は、昨年夏に同市
 の2回目を以て終業で
 来日。突如彼国を訪問
 するPR、市内諸人への
 バオト普及化の紹介
 など精力的に活動して
 一矢、四内和紙の舞臺
 体験、西洋の紙、紙を
 の参画、農業・伝統文化
 験など、相互理解に
 努め、圓の友好流に
 役を担ってきた。
 だが、今宵は竹生流
 的に新型ロナナルス感

染が有る。2020年夏
 染、バラは20年
 延期になった。景司・余
 の海外の交遊は、自
 國も余など交わって
 そんな中、バオトの普及
 ヲキョウ・興出ること
 たり、来日バオトの方間
 残し、七個が20年
 七、二十二年は幹
 部を前に、研中に傳
 たり、バオトで諸を述べた。
 ケネリ・「ケルズ」
 市、余などさんの人伝
 市、バオトさんの人伝
 互、双方の感情に付た



グッズを来客に配ってバラオをPRするシェナ・セゲバオさん(左)とケネリー・レケメルさん＝常陸大宮市岩崎の道の駅常陸大宮かわブラザ

No.7 2020.7.12 掲載 毎日新聞

「五輪で選手支える」

常陸大宮 パラオ研修生を送

常陸大宮市がバラオから受け入れていた研修生うゝ人が、新型コロナウイルスの影響で予定を早めて帰国することになり、同市役所で10日、送別セレモニーが開かれた。

本来は大会終了後の8月末に帰国予定だったが、コロナ禍の影響で大会が延期されたこととから、バラオ政令府が予定より早く帰国させることを決めた。

帰国するのはケネリー・レクルさん(23)とシエン・セバさん(23)。2人は2019年9月10日同国のペリリユ州政府から、東京五輪のボランティアとして派遣された。ケネリーさんはケニアの首都ナイロビで生まれ、ケニアの代表選手として2016年リオ五輪に出場した。シエンさんはケニアの代表選手として2016年リオ五輪に出場した。ケネリーさんはケニアの代表選手として2016年リオ五輪に出場した。シエンさんはケニアの代表選手として2016年リオ五輪に出場した。



鈴木市長（右）から感謝状を受け取るレケメルさん（中央）とセゲバオさん＝常陸大宮市役所で

見られて幸せだった」と話した。2人は14日に帰国の途につく。

い)、シメナさんは「(一ろ
ん)方にお搭ねになり、乗
り生活した。自分で考
える方法でよいの、衣袴を
詰めたい」といふし、
鈴木定幸さんは「(タリ
ー)さんは、回目的研鑽、シ
メナさんは初めての、大
な財産にのちで、と思つ
て、人ばかりで七人
人が集つてくれたバラと
飾で、彫られ、野外スチ
ュディオ、
ジノ近和施設内で、菅宮に
バラのメソフ、なをを
開り、最後の好例、進行
と交、研、問、中、生徒
と、ま、研、問、中、生徒
の興、小、高、高、は9日、小
生徒から上、に、興、れ、
せん、上、れ、別、を、信、ん、
だ。(高、風、和、也)

テレビ【抜粋】

No.1	NHK水戸	2020/5/20	いば 6	事前キャンプ地にも新型コロナの影響が
No.2	NHK水戸		茨城ニュース845	
No.3	NHK水戸	2020/6/23	茨城県のニュース	パラオ人研修生 ペリリュー島の戦い学ぶ
No.4	NHK水戸		茨城ニュース845	
No.5	NHK水戸		茨城県のニュース	
No.6	NHK水戸	2020/7/6	いば 6	帰国前に七夕に友好願う
No.7	NHK水戸		茨城ニュース845	
No.8	NHK水戸	2020/7/14	いば 6	思い出胸に 帰国の途

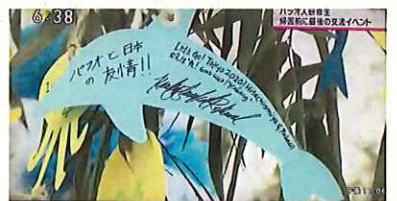
No.1,2 2020.5.20放送 NHK水戸
事前キャンプ地にも新型コロナの影響が



No.3,4 2020.6.23放送 NHK水戸
パラオ人研修生 ペリリュー島の戦い学ぶ



No.5,6,7 2020.7.6放送 NHK水戸
帰国前に七夕に友好願う



No. 1	2019年10月号	パラオ研修生自己紹介
No. 2	2020年 1月号	水戸啓明高校グローバルフロンティアコース生徒と交流 JENESYS2019実施
No. 3	2020年 2月号	研修生編 陶芸体験、楮の刈り取り体験
No. 4	2020年 3月号	研修生編 干し芋の作業体験
No. 5	2020年 4月号	研修生編 56年前の聖火リレー走者にインタビュー パラオ共和国研修生交流プロジェクト
No. 6	2020年 5月号	食文化『ベルダックル』紹介・伝統文化『パイ』紹介 世界を応援しよう！「Kabong Palau！」
No. 7	2020年 6月号	食文化『カンクンソテー』紹介 パラオ研修生がつくる常陸大宮市紹介動画
No. 8	2020年 7月号	食文化『スパムムスビ』紹介・伝統文化『イタポリ』紹介 ペリリュエ島慰霊会影山幸雄氏インタビュー パラオ応援花壇づくり
No. 9	2020年 8月号	表紙 お世話になりました。また、来年会いましょう！ かわプラザで七夕フェス

No.1 2019年10月号



みんなで応援しよう！

東京オリンピックまで あと274日
(2019年10月26日現在)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会



市では、来年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、パラオ共和国選手団の事前キャンプやホストタウン交流事業をより円滑に進めるため、2017年度に引き続き、パラオ共和国からの研修生を2人受け入れました。また、東京2020大会終了後もパラオ共和国との継続的な交流やレガシー（遺産）創出のため、パラオ共和国で青年海外協力隊の隊員として活動していた本多美月さんを任期付職員として採用しました。



こんにちは。シェナ・セゲバオです。今回初めて常陸大宮市に来て、市民の皆さんはとても親切で、敬意を持って接してくれ、とても素敵なまちだと感じました。

私は、日本の文化や生活について学び、理解し、多くの友達を作りたいと思います。そして、常陸大宮市の皆さんにパラオについてさらに知ってもらえるよう、パラオの文化の紹介や、東京2020大会に向けた活動をしていきたいです。



ケネリー・レケメルです。私は、約2年前に常陸大宮市で研修をしていたので、今回は2回目になります。前回の研修で、基本的な日本語を学び、コミュニケーションが取れるようになりました。今回は、皆さんとより積極的に交流をしながら、ホストタウンの事業を通して国際交流事業やスポーツマネジメントについて学びたいと思います。

No.2 2020年1月号

12/17 水戸啓明高等学校グローバルフロンティアコース生徒と交流

パラオ共和国研修生が水戸啓明高等学校を訪問し、英語に特化したグローバルフロンティアコースの生徒25人と交流しました。

水戸啓明高等学校とは、東京2020大会に向けたパラオオリンピック委員会柔道チームの事前キャンプを同校で2度練習をしたことが縁で、多文化共生への理解と国際交流の促進等を図りながら、本市とパラオに対する認知度の向上と東京2020大会への機運を醸成する目的で実施されました。

生徒と授業を一緒に受けた後、給食の時間には、パラオ語となった日本語の話題等で盛り上がり「アジダイジョーブ（おいしい）」と皆で言いながらの楽しい給食となりました。

その後、元青年海外協力隊（JICA）としてパラオに2年間派遣されていた本市東京オリパラ推進室の本多美月主事が「一歩踏み出す勇気とチャレンジする気持ち、たくさんの人との出会いが大切」と経験談や協力隊に参加したきっかけを語り、生徒たちの夢の後押しとなる講演をしました。啓明高校生徒との交流をとおして、パラオや本市の取り組みなどを市外へも発信する機会となりました。



▲生徒と一緒に給食を楽しむシェナ



▲本多美月主事の情熱がこもった講演



常陸大宮市2019年十大ニュース

2019年の本市の十大ニュースを市職員から募集し、105人から713件が集まりました。

※毎年行われる行事は除き、市域内の出来事を対象としています。

第6位

パラオ共和国から研修生が来市



No.3 2020年2月号

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編

ホストタウン交流計画の一環として、パラオ共和国から来市している2人の研修生が本市とパラオとのさらなる友好関係交流事業を企画立案する素材として、「陶芸（御前山）」と「西の内紙」で伝統文化の体験をしました。

1月

陶芸作家の菊地弘さんが構える山王窯で、陶芸の基礎や歴史等を教わったあと、「手びねり」の技法で、ひも状に伸ばした土を重ねながら器や皿などを作りました。「電動ろくろ」では、何度も失敗しながらも茶碗や湯呑などを製作しました。

シェナさんは、「陶芸は、とても面白くて楽しい。日本からパラオに伝わったとされるさまざまな工芸や文化、技術等をもっと知りたい。」と話していました。



▲手びねりで器を作るシェナさん

2月

紙のさと（舟生）さんの協力で、楮が栽培される舟生・盛金地区の傾斜地で高さ2mを超える楮の刈り取りのほか、運び出す作業をしました。その後蒸しあげた楮の束を一斉に取り出し、湯気が立つ楮の皮をきれいに捻じりながらむき取り干しました。ケネリーさんは、「1枚の西の内紙になるまでには、長い時間と労力がかかる。自然エネルギー（太陽・土・水等）の力で和紙になることが分かり、とても良い経験になった。」と感想を述べていました。



▲むいた楮の皮をまとめるケネリーさん

No.4 2020年3月号

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編

ホストタウン交流計画の一環として、パラオ共和国から来市している2人の研修生が本市とパラオとのさらなる友好交流事業を企画立案する素材として、本県の特産品である「干し芋」ができるまでの作業を体験しました。

この体験に協力してくださったのは、元地城おこし協力隊の間瀬邦生さん。間瀬さんは、4年前に本市に移住し、3年間農業体験民泊や干し芋加工事業等に取り組み、現在も那賀地区に居住して地元で根差した農業を行っています。

研修生は、昨年のうちに「干し芋」の原料となるサツマイモ（品種：紅はるか）を何百本も掘り出し、大きさや形などの選別のほか、機械で洗浄する作業をしました。その後、サツマイモを盛金地区の金山跡の横穴洞窟内で約3か月間寝かせて、じっくりと熟成させました。熟成期間を終えたサツマイモを洞窟から取り出し、蒸し器でふかし、1本1本手作業で

の皮むきに挑戦。皮をむいた後は、サツマイモをスライサーで薄く切り1枚1枚丁寧にハウス内の干しカゴに並べました。

シェナさんは、「これをきっかけに私の好きな日本の食べ物が干し芋になった。パラオではタロイモをよく食べるので、タロイモで干し芋ができるかどうか試してみたい。」と話していました。ケネリーさんは、「外よりも洞窟の中はとて暖かく、気温や湿度が保たれているせいか、熟成された干し芋はとておいしい。ペリリュー島にも横穴洞窟があるが、洞窟がサツマイモの貯蔵庫として活用されていることにとても驚いた。」と感想を述べていました。



▲自然の貯蔵庫横穴洞窟（内部気温約10℃）



▲並べた干し芋と笑顔の研修生

No.5 2020年4月号



みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

パラオ共和国研修生交流プロジェクト

ケネリーさんとシェナさんが、本市の魅力をパラオ共和国へ発信すると共に、パラオ共和国の伝統文化を市内の高校生へ紹介し友好交流を促進する「パラオ共和国研修生交流プロジェクト」を行いました。
この事業は、パラオ共和国での本市の知名度の向上と身近に感じてもらうこと、研修生と高校生などが交流することで相互理解を深め、継続的な友好交流の促進を図ることを目的として実施しました。

①本市の魅力をパラオ共和国へ発信

常陸大宮高校生3人、小瀬高校生2人を案内役と撮影アシスタントとして迎え、研修生が市民の皆さんへのインタビューや観光地・特産品の取材を通して、本市の魅力（場所・もの・食べ物・人など）を学びました。それらを写真や映像に収め動画を作成し、研修生がSNSを使ってパラオへ発信します。
ケネリーさんは、「高校生が英語で常陸大宮市の魅力を説明してくれ、多くのことを学ぶことができた」と感想を述べていました。参加した高校生からは、「自分が住んでいる常陸大宮について、まだまだ知らないことが多く、この機会に常陸大宮市の魅力を再発見することができた」「英語学習の励みとなり、研修生と友達になれてよかった」など参加してよかったとの声が聞かれました。



▲高校生による観光地の紹介



▲パラオ共和国の文化を紹介しました

②パラオ共和国の魅力発信と友好交流の促進

常陸大宮高校2年生48人と小瀬高校1年生30人を対象に、研修生がパラオ共和国の紹介をしました。パラオの「シェーカーン」（パラオ語で冠婚葬祭のこと）である「Omengat（オモガット）」について説明をしました。オモガットとは、第一子誕生後に無事に出産できたことを祝い、母親の体力の回復を祈る儀式のことです。教室にオモガットの会場の様子を再現し、高校生にはパラオの雰囲気も味わってもらい、お金を持ってお祝いするダンスも体験しました。参加した高校生からは、「パラオでは、お金を持ってダンスをしてお祝いするなど日本と全く違う文化がありびっくりした。今回パラオの話を聞いてパラオに興味を持った」「パラオの人々は家族をととても大切にしていることが分かった」などの感想が挙がりました。

プロジェクトを終えてシェナさんは「常陸大宮市の魅力を高校生とともに探ることができた。これからも、パラオの人に常陸大宮市について知ってもらえるようにSNSを使って発信していきたい」と話していました。

今後も、研修生と高校生が協力して本市の魅力発信を行うことで、パラオ共和国と本市の若者のネットワークを構築し、SNS等を活用した新たな交流を促進していきます。

ホストタウンフレーム切手贈呈式

オリジナルフレーム切手「常陸大宮市×パラオ共和国ホストタウンフレーム切手」が日本郵便（株）から販売されることを記念し贈呈式が行われました。受け取った三次真一郎市長は「素晴らしいホストタウンフレーム切手をいただいた」とお礼を述べられました。切手は、市内にある郵便局（一部の簡易郵便局を除く）のほか、東京中央郵便局、大手町郵便局、インターネットで購入することができます。



広報 常陸大宮 令和2年4月号

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編



▲当時着たユニフォームを背に話す益子さん

▲当時着たユニフォームを背に話す益子さん
益子さんは、56年前の1964（昭和39）年10月4日、美和村教育委員会（当時）から推薦され、副走者として水戸市内1.2kmの聖火リレーに参加されました。

シェナさん：どこを何人で走りましたか？
益子さん：水戸市内で、水戸一商前（現：水戸啓明高等学校）から千波十文字までの区間です。私は副走者だったので、正走者が何かあったときに助ける役目でした。メンバーは、美和村青年会7人のほか水戸市内高校の生徒たち、合わせて23人で走りました。
シェナさん：聖火ランナーとして走っているときの気持ちを教えてください。

益子さん：沿道に子供から大人まで大勢の人が、日本の手旗を振りながら応援してくれました。とても誇らしい気持ちで、走り終えたときは、大きな役目を果

たして「ほっ」としたことを記憶しています。

ケネリーさん：新型コロナウイルス感染症の影響で、東京2020大会の聖火リレーは一旦中止となり、大会も来年に延期となりましたが、東京2020大会に向けた思いなどを聞かせてください。

益子さん：報道を聞いて残念でしたが、世界200か国を超える選手や人々が安全・安心に東京に集うことを願い、みんなが楽しく夢中に、そして盛り上がるオリンピックとなることを期待しています。

ケネリーさん：本市はパラオのホストタウンです。パラオの選手にメッセージをお願いします。

益子さん：東京2020大会では、パラオの選手からメダリストが生まれるよう応援しています。頑張ってください！



▲熱心にインタビューする研修生



▲聖火リレー参加者記念バッチ（1964年）

みんなで応援しよう! 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

今月号では、東京2020大会のホストタウンであるパラオ共和国の食・伝統文化について紹介します。

海洋資源が豊富なパラオの魚料理「ベルダックル」

パラオは海に囲まれており、魚介類(魚やカニなど)をたくさん獲ることができ、昔から魚を煮たり焼いたりしてタンパク質として栄養を摂っていました。今回は、魚料理の中でも、パラオの家庭でよく食べられている「ベルダックル」を紹介いたします。

「ベルダックル」とは、パラオ語で「スープ」を意味します。魚で出汁をとってティティムという種類の芋と塩で味付けします。魚の旨味とティティムの独特の酸味で、日本人の口にもよく合います。



完成したベルダックル

【ベルダックルアレンジレシピ】ベルダックル風 鮎の卵とじスープ

本市では、昨年12月7日(土)にパラオ共和国の独立25周年、日本とパラオの外交関係樹立25周年を記念して、駐日パラオ共和国大使館と共に「クッキングプロジェクト」を実施しました。プロジェクトでは、市内にある私立南大宮高等学校と私立小瀬高等学校の生徒が、市の食料とパラオの食文化を融合させたお弁当づくりに挑戦しました。その際に考案したレシピを紹介いたします。ぜひご家庭で作ってみてください。

＜材料(4人分)＞	
・鮎(白身魚で代用)	4匹
・黄久島粉	2個
・長久島粉	1本
・ティティム	数粒
・コブミソなどの粗挽の菜で代用可	1粒
・塩	適量
・水	1000cc

＜作り方＞
①鮎は全部、頭と内臓を取り除く。キッチンペーパーで水気を取り、グリルで4～5分中火で焼く。焼けたら1匹を4～5等分に切り分ける。長さは5mm幅に小口切りにしておく。
②白身魚などの切り身を使用する場合は、一口大の食べやすい大きさに切る。
③鍋に水を入れ、昆布を入れる。沸騰し始めたら昆布を取り出す。
④鍋に、切った鮎、ティティムを加えて10分ほど弱火で煮立たせる。
⑤粗挽の菜を加え、塩を加えて味を整える。最後に水を加えて完成。
【原案：25周年記念行事実行委員会 クッキングプロジェクト】リーダー 遠藤 翔 氏

皆様で作った「パラオ料理」「パラオ料理アレンジレシピ」を募集します

今回紹介した「ベルダックル」を「実際に作ってみたい」「材料を使ってアレンジしてみたい」という方は、完成した料理の写真をぜひお送りください。お送りいただいた方にはオリジナルパラオグッズをプレゼントします。さらに素晴らしいアレンジレシピには「アイデア賞」を贈ります。皆様のご応募お待ちしております。

応募方法：Eメールまたは郵送にて料理の写真を送りください。
①郵送の場合は住所②氏名③電話番号④調理した感想⑤アレンジレシピの場合はアレンジした内容を記載してください。

応募先：宮城県大宮市西宮町三丁目1番1号 宮城県大宮市西宮町三丁目1番1号 宮城県大宮市西宮町三丁目1番1号 宮城県大宮市西宮町三丁目1番1号

応募締切：令和2年6月30日(木)

※ご応募いただいた写真は後日公開HP等で掲載させていただきます。2人から、パラオ共和国の応援を皆さんに紹介します!

広報 宮城県大宮 10 令和2年5月号

昔、集会所の役割を担っていた「バイ(A Bai)」パラオの歴史の建造物



パラオのベリリュー出身、シェナ・セグ・バオが、歴史の建造物「バイ」について、紹介します。



▲パラオ国立博物館のバイ (1991年撮影)

私は、シェナ・セグ・バオです。パラオ共和国ベリリュー州出身で、東京2020大会に向けて両国選手村のレポートをメインに、昨年9月から本市で研修をしています。今月号では、パラオ共和国のことを皆さんにもっと深く知ってもらうために歴史の建造物である「バイ」を紹介します。



▲バイ内部の様子(中に入ることはいけません)

「バイ」は、数百年前からある建造物で、集会所の役割を担っていました。かつては、それぞれの村に建てられていた「バイ」は、自然災害や戦争で消失するなど、今では残っている「バイ」は、数少ない「バイ」です。最も古い「バイ」は、ベリリュー州にある「ベリリュー」といいます。パラオ共和国のアイライ州にあり、観光客向けに一般開放しています。「バイ」の前でパラオダンスを鑑賞しながらパラオ料理を味わうことのできる人気の観光ツアーもあります。

パラオで集会所という意味の「バイ」は、草葺きの三角屋根で、軒や柱は一切使わずに建てられており、高さ約8m、幅約5m、長さ約20mの大きさで、近くで見ると海が浮き上がるように見えます。また、正面屋根下の三角屋根には、「太陽」「月」「星」等の自然や家畜を象徴する絵が彫られています。この絵には、それぞれに意味があり、パラオの歴史や伝統文化を伝える大切な役割を担っています。また、「バイ」には神様がおり、男性だけが入れることのできたりや男女共用のものもあり、学校のような役割を持ち、子供たちが遊びや祭り、大工仕事などを集う場として活用されたものもあると語られています。

私も、学生時代に、学校で「バイ」の歴史や意味を勉強しました。先生からは、これらの伝統文化を次の世代に引き継ぎ、人から人へつないでいくことが大事であると教えられました。私は、「バイ」に込められたパラオの歴史や伝統文化を皆さんに知っていただき、来年のオリンピックに向けて、パラオと宮城県大宮市の友好関係をもっと強くしたいと思っています。皆さんも、パラオを訪れた際には「バイ」の雄姿と魅力を楽しんでみてください。



▲アイライ州にある歴古のバイ (1990年撮影)

絵の意匠等 Meskuk (メスクク)	壁には無数の魚が同じ向きで彫られ、皆が協力し合って立ち上がりという意匠がある。
Chedschul (エデウ)	壁の最上段に彫られる鳥の意匠。
Malik (マルク)	二羽の鶏が向かい合っており、会合での決断事項を指し示している。

広報 宮城県大宮 10 令和2年5月号

オリンピックで
パラオを応援しよう!
Kabong Palau! (ガーボン パラオリ)

※Kabong(ガーボン)は、パラオ語で「がんばれ」の意味です。

「日本! チャチャチャ 日本! チャチャチャ」
スポーツ観戦には欠かせない、みんなが知っているこのフレーズ。東京2020大会では、200を超える国・地域の方々が来日し、各国のサポーターがそれぞれの国の言葉やリズムで選手を応援します。そのエールが、選手を後押しし、日本とパラオ、そして、世界のみんなとつながる魔法の合言葉となります。

ホストタウン交流計画の一環として、本市で研修をしているケネリーさんとシェナさんが、駐日パラオ共和国大使館から推薦され、この動画にパラオ共和国代表として出演しています。2人から、パラオ共和国の応援を皆さんに紹介します!

① Let's Go Palau Let's Go Bonbon (2回 手をたたく)

② Kabong Palau Kabong Bonbon (2回 手をたたく)

③ Shout! イェー!

！動画は、下記 URL から視聴することができます。ぜひ、ご覧ください！
○世界を応援しよう! URL: <https://sports.nhk.or.jp/dream/cheer/>

東京2020大会では、みんながパラオ共和国の選手を応援しましょう!

パラオ共和国選手への応援動画を募集します! 動画には、「Kabong Palau! (ガーボン パラオリ)」のフレーズを必ず入れて、時間は30秒以内としてください。ご応募いただいた方には、もちろんオリジナルパラオグッズをプレゼントします。応募の際は、件名に「パラオ応援動画」と入力し、メール本文に①郵便番号②住所③氏名④電話番号⑤一言コメントを記載の上、下記アドレス宛にメールしてください。メール確認後、アップロードアドレスをお送りします。応募締め切りは、令和2年7月31日(金)です。たくさんのご応募お待ちしております。なお、ご応募いただいた動画は、後日市HP等で掲載する場合があります。

動画応募用アドレス: oripara2020@city.hitachiomiya.lg.jp

No.7 2020年6月号



みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

5月号に引き続き、東京2020大会のホストタウンであるパラオ共和国の食文化について紹介します。

南国パラオの野菜料理「カンクンソテー」

パラオ共和国は島国なので魚やカニ、貝などが豊富で、また、南国らしくタロイモやパイナップル、バナナなどがよく食べられています。パラオで作られている野菜は、カンクン（空心菜）などの葉野菜やナス、オクラ、ミニトマトなどの日本で夏野菜と呼ばれるものが多く、そのほかスーパーで売られている野菜のほとんどがアメリカなどからの輸入品です。今回は、パラオで親しまれているカンクンを使った炒め物「カンクンソテー」を紹介します。

「カンクン（空心菜）」は、日本では「ヨウサイ」と呼ばれることもあり、主に暖かい地域で自生している野菜です。パラオでは、カンクンを一口大に切って炒めツナと合わせ、ニンニクや塩、醤油、唐辛子などで味付けをして食べます。これからの時期、皆さんも旬のカンクンをパラオ風に調理して食べてみてはいかがでしょうか。



▲カンクンソテーを食べる研修生のケネリーさんとシェナさん

【カンクンソテーアレンジレシピ】小松菜とスパム炒め

本市では、昨年12月7日（土）にパラオ共和国の独立25周年、日本とパラオの外交関係樹立25周年を記念して、県立常陸大宮高等学校と県立小瀬高等学校の生徒が、市の食材とパラオの食文化を融合させたお弁当づくりにチャレンジする「クッキングプロジェクト」を実施しました。（主催：駐日パラオ共和国大使館）

今月号では、県立常陸大宮高等学校の生徒がカンクンソテーをアレンジし、パラオ人が大好きなスパムを使ったレシピをご紹介します。皆さんもぜひ作ってみてください。

＜材料（4人分）＞	
・小松菜	5束
・スパム	1/2缶
・原木生しいたけ	2個
・醤油	適量
・油	大さじ1



▲県立常陸大宮高等学校の生徒が作ったお弁当

＜作り方＞

①小松菜は根を切り落とし、洗って水気を拭いてから3～5cmの一口大に切る。

②しいたけ、スパムは食べやすい大きさに切る。

③フライパンに油をしき、材料をすべて加えて小松菜がしんなりするまで中火で炒めたら完成。

【監修：25周年記念行事実行委員会 クッキングプロジェクトリーダー 遠藤 麻鈴氏】

＜皆様が作った「パラオ料理」「パラオ料理アレンジレシピ」を募集します！＞

今回紹介した「カンクンソテー」を「実際に作ってみよう！」「材料を替えてアレンジしてみよう！」という方は、完成した料理の写真をぜひお送りください。お送りいただいた方全員にオリジナルパラオグッズをプレゼントします。さらに、素晴らしいアレンジ料理には、「アイデア賞」を贈呈します。皆様のご応募をお待ちしております。

応募方法：Eメールまたは郵送にて、料理の写真と①郵便番号②住所③氏名④電話番号⑤調理した感想

⑥アレンジレシピの場合は、アレンジした内容を記載し、お送りください。

応募先：常陸大宮市企画政策課東京オリパラ推進室

常陸大宮市中富町3135-6 / Eメール：oripara2020@city.hitachiomiya.lg.jp

応募締切：令和2年7月31日（金）

※ご応募いただいた写真、レシピは、後日市公式HP等で掲載させていただく場合があります。

広報 常陸大宮 9 令和2年6月号

みんなで応援しよう！ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生編

パラオ共和国研修生がつくる「常陸大宮市の魅力いっぱいの動画」をパラオに向け好評配信中！

ケネリーさんとシェナさんが、パラオの皆さんに常陸大宮市をもっと身近に、もっとより深く知ってもらおうことを目的に「Palau×Hitachiomiya」のタイトルで動画を配信しています。昨年9月に来日した研修生2人が、東京2020大会に向けた研修や市民の皆さんとの交流等を通して感じたことをまとめた動画です。また、研修生と共に動画制作のサポートをしているのが、昨年7月まで2年間青年海外協力隊としてパラオ陸上チームのコーチを務め、現在、本市において東京オリパラ推進事業に携わる本多美月さん。動画は、パラオとの歴史的関係やパラオ選手団事前キャンプの様子のほか、市の特産品などの魅力をパラオ人の視点で、撮影からナレーション（英語）まで自分たちが手がけています。

皆さんも、この動画で、本市とパラオのつながりを知り、来年の東京2020大会でパラオ選手団を応援しましょう！
Kabong Palau！（ガーボン パラオ！ ※Kabongは、パラオ語で「がんばれ」の意味です。）



▲パラオ共和国研修生（左からケネリーさん・シェナさん）、東京オリパラ推進室本多美月さん



▲常陸大宮市とパラオの歴史的関係動画の一部



▲常陸大宮市基礎情報動画の一部

動画配信サイトYouTube「Palau×Hitachiomiya」で検索をお願いします！



「セタフェス」(道の駅常陸大宮かわプラザ)にて、茨城県立常陸大宮高等学校(商業科 HIOKO ホールディングス株式会社)の皆さんとの1枚(関連記事 P17)

7/5

パラオ共和国研修生最後のイベント 「セタフェス」でホストタウンPR!

パラオ共和国研修生のケネリーさんとシェナさんが、道の駅常陸大宮〜かわプラザ〜「セタフェス」で研修最後となるホストタウンPRイベントに参加しました。研修生2人は浴衣と甚平を着て、来場した皆さんにオリジナルパラオステッカーの配布や本市とパラオのつながりについて紹介をしました。パラオをイメージした短冊には、青色はイルカ、黄色はクラゲをかたどり、パラオに寄せた願い事約200枚が竹に飾られました。

ケネリーさんとシェナさんは、未来に向けた交流の一翼を担う気持ちと共に「パラオと日本、そして、常陸大宮市の友情が永遠に続くように!」との願いを短冊に込めました。



▲「セタフェス」でPRをするパラオ共和国研修生



みんなで応援しよう! 東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会

研修生
(帰国)編

常陸大宮市の皆さん、ありがとうございます!
パラオ共和国研修生2人が、新型コロナウイルスの影響拡大により急遽帰国!

パラオ共和国研修生のケネリーさんとシェナさんが、新型コロナウイルスの影響拡大により、予定より早く7月14日に日本を出国しました。

2人は、昨年9月に来日し、日本語学習や市の文化体験のほか、本市のホストタウン交流事業のサポートをするためにイベント等を通して、市内内外の皆さんと積極的な交流をしてきました。また、彼ら研修生の活動は新聞やテレビなどに数多く取り上げられ、本市を広くPRしてくれました。これらの活動実績に対し、7月10日に開催された送別セレモニーでは鈴木市長から感謝状が授けられ、シェナさんに「常陸大宮市国際交流大使」が委嘱されました(ケネリーさんは前回の研修終了時委嘱済み)。コロナ禍による研修の2ヶ月短縮は、2人にとって心残りとなりましたが、帰国後もパラオと常陸大宮市をつなぐ友好の懸け橋として活躍されることが期待されています。



▲研修生から最後のあいさつ(市所正室直前)



▲鈴木市長から感謝状を受ける研修生(7月10日送別セレモニーの間)



シェナ・セガバオさん

「常陸大宮市の皆さん、10ヶ月間大変お世話になりました。オリンピックが来年に延期となったことはとても残念です。私は、常陸大宮市で見た景色や経験したことを絶対に忘れません。パラオに帰りますが、パラオの人たちにホストタウン常陸大宮の魅力を伝える方法で伝え、そして、来年もう一度、この常陸大宮市に戻ってきて、皆さんと一緒にパラオ選手を応援したいです。Kabong(ガボン) Palau & Hitachinomiya! 永Kabongはパラオ語で「がんばれ」の意味です。」



ケネリー・レケメルさん

「今回で2回目の研修となりましたが、更に多くの体験や勉強をさせていただき本当に感謝しています。私は、市内で皆さんに会うと「ケネリー!」と気軽に声を掛けてくれたことがとてもうれしかったです。この研修で得た知識と経験を今後のホストタウン交流事業に活かし、パラオと常陸大宮市の橋渡し役になりたいです。本当にありがとうございました! Sulang(スラン)がパラオ語で「ありがとう」の意味です。」

7月14日に出国後、7月31日に無事、パラオに帰国しました。

本多美月主事(元JICA海外協力隊:パラオ陸上チームコーチ)が
小瀬高等学校生徒に国際理解や挑戦する大切さを伝える!

昨年9月から、本市東京オリパラ推進室に勤務する本多美月主事(元JICA海外協力隊:パラオ陸上チームコーチ)が、「パラオ共和国での2年間」と題し、小瀬高等学校生徒1学年25名に国際理解や国際的な視野を広げることを目的に授業を行いました。「スポーツがとにかく好き!」という自己紹介の後、「自分が今いる世界があたり前ではなく、スポーツで世の中を元気にしたい。そして、日本で開催される東京オリンピックに携わりたい!という気持ちで自分を奮い立たせ踏み出すことができた」とJICA海外協力隊に応募した動機を話しました。また、現地でのホストファミリーとの生活のほか、パラオ陸上チームのコーチとして活動した取組等を、熱意あふれる言葉で生徒に伝えました。



▲パラオの2年間について語る本多主事(右端)



▲真剣に聴き入る小瀬高等学校生徒の皆さん

授業の中では、新型コロナウイルスの影響拡大で急遽帰国となったパラオ共和国研修生のケネリーさんとシェナさんが動画(録画)で出演し、パラオの高校生活や放課後の過ごし方等を英語で紹介したほか、一時帰国滞在中のグルメでのホテル内の様子を生徒に説明しました。

グループ討議では「発展途上国と聞いてどう思うか」をテーマに話し合い、生徒からの「治安が悪い」等のマイナスイメージの意見に対し本多主事からは、「世界の国・人がそれぞれの価値観でプライド(誇り)を持っているからこそお互いを尊重すべきであり、実際に体験して初めて感じるものがたくさんあった」と語りました。最後に、2年間の協力隊経験から得た「一歩踏み出す勇気を持って、いろいろなことにチャレンジすること」「原動力となる自分の好きなことを大切にすること」を伝えるとともに、「ホストタウン交流をみんなで盛り上げていきましょう!」と交流事業への参加を呼びかけ、授業を締めくくりました。

授業を終えた生徒からは、「本多さんと研修生の話を聞いてパラオをより身近に感じ、英語を勉強し覚えて、人の温かきを感じる国のパラオにいつか行ってみたい」「スポーツが好きなので、世界の国々にスポーツを伝える職業につきたい」との積極的な感想があり、本市のホストタウンの取組への理解促進につながりました。



▲パラオの高校生活について説明するシェナさん(左)とケネリーさん(右)

団体機関紙

参考資料（新聞・テレビ等広報関連）

No. 1

2020年3月

常陸大宮市国際交流協会機関紙「国際交流」掲載

No.1 常陸大宮市国際交流協会機関紙 「国際交流」掲載



R1/11/10

青空の下での収穫祭

